

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

ひらお保育園【稲城市】

活動期間：2026年3月3日

テーマ③【色々な感触に触れる】つぼみ(0歳児) **子どもの様子**

・前回までの活動の中で、感触が苦手な子が入り込めない姿が気になっていた。どのような感触なら楽しめるかと考えていた。その中で、手が汚れない感触遊びを思いついた。
・感触遊びを重ねてきた中で、感触だけでなく五感を使った遊びを設定することで、子どもたちの反応も良かったので、今回は絵の具を使うことにした。

少人数で行うため、2グループに分けて活動する。マットを見ると、直ぐに足で踏みに行く。「プच्छ」という音に驚いて保育者のもとに駆け寄ってくる。「音、鳴ったね」と声をかけ一緒に近づく。他の子が気にせず上に乗っている姿を見て、恐る恐る足を乗せたり、大人の真似をして絵の具がある場所に触れる。絵の具が固くうまく混ざらないので、霧吹きで水をかけ、再度閉じてみると綺麗に滲んで色が混ざっていく。その様子を見て「あか!」「きーろ」など大人に嬉しそうに教えている。色がまだ分からない子も、緩衝材の感触が楽しい様子。まだ立てない子も座った状態で両足をバタバタさせて「プच्छ」という音や感触を楽しんでいる。上で走ったりジャンプしたり、思い思いに楽しむ。段々ダイナミックになり最後は寝転がって全身で感触を感じている。

探求活動の実践

活動：緩衝材と絵の具で遊ぶ
環境をデザインする：

準備したもの・環境設定

・緩衝材(120×120)2枚、絵の具(赤・青・黄色・緑・白)、養生テープ、霧吹き



活動内容

・緩衝材を床に敷いて、その上に絵の具を出す。その後、もう一枚の緩衝材を上から重ねてすべての端を養生テープで固定する。その上から、手や足で触ることで、絵の具がつぶれる感触や色が混ざる様子、緩衝材の感触などを楽しむ。



振り返りをふまえた気づき

・初めに驚いたのは、子どもたちが初めての緩衝材に対してまず「踏んだ」ことだった。今までの感触遊びは、設定した物に対してまずは手で触れる事がほとんどだった。初めての物に対して、すぐに足で感触を確かめる為には、まずは環境自体が子どもにとって安心できる場所であること、また安心できる大人が傍にいる事が必要ではないかと思っていたからだ。子どもたちが、この1年で積み重ねてきた経験や大人との信頼関係があったからこそこの姿なのだと感じた。だからこそ、なんだろう?と興味を持った物に対して、足から試してみる子ども達の姿に感動した。また、いつもは感触が苦手な子も汚れない遊びに対してはとても積極的な姿を見せてくれた。

・一人でじっくり「もの」と関わる姿もあったが、この遊びの中では「お友だちと一緒に」ジャンプしたり、寝転んで笑いあう姿も見られた。まずは一人で確かめ、探求した後大人だけでなく友だちとも一緒に楽しさを共有する子どもたちの姿に成長を感じた。

・この1年、感触を通して子どもたちが探求する姿を見守ることで、改めて「子ども自身が考え、探求する力」ということを学ぶことが出来た。大人の働きかけだけではなく、子ども自身が感じて考えて試す姿は、とても輝いて見えた。今後も、子どもの「今」の興味や発達を大切に保育していきたいと感じた。